

2016 年 3 月度 建築音響研究会 開催報告

3 月度の研究会は、豊洲シビックホールにて開催しました。研究会のテーマは一般で、ピアノの音源指向性が音楽聴取に及ぼす影響、音に包まれた感じの評価、豊洲シビックホールの音響計画、の 3 件の発表があり、54 名の参加者により活発な質疑討論がおこなわれました。研究発表の後、ピアノ、チェロ、フルートのソロ演奏によるミニ演奏会が開催されました。演奏会では、舞台上反射板の有無による違い、ステージ上の演奏位置の違いを比較試聴し、演奏のしやすさの違いを演奏者にもインタビューするなど建音研ならではの企画

2. 音に包まれた感じが初期及び後期の残響エネルギーから受ける影響に関する調査

○石田舞, 亀川徹, 丸井淳史 (東京藝大)

【概要】一般に、音に包まれた感じ (LEV) は主に後期の残響エネルギーが寄与すると考えられている。しかし著者らの以前の実験では直接音のレベルに応じてLEVが増加した。すなわち初期の音のエネルギーが寄与するLEVも存在すると考えられた。このことから本稿では、LEVは少なくとも「部屋の響きによる音に包まれた感じ」と「楽器音による音に包まれた感じ」があると考え、それぞれのLEVに影響を与えている物理的要因について調査を行った。その結果、「部屋の響